



第6章

帯広の森づくりに関わる論文、エッセイ

害、石油危機、異状な迄の物価高と 目まぐるしい社会の移り変りにかかげたキャッチフレーズは、澄みきった青空、きれいな水、豊かな緑をまもる北国にふさわしい生活文化の創造であり、近代的田園都市を未来像とした吉村さんの構想は市民皆に好感をうけたと思います。

あの時の帯広百年誌の中の帯広の森完成予想図なども思い出されますが、この様に20年たって見ると、実に遠大な吉村さんの心に感激させられている所です。

人間は一つの理想を持ち夢を残していくという事の尊さを知らされた思いです。

最後に、吉村さんの俳句、

「覇を去りて 雪の故山に 帰りませ」

現在の政局を見る様に、何派何党と旗をかかげて争っている姿を、あの頃すでに感じていられた吉村さん。心を洗ってくれる様な故郷の雪の中に、どうぞお帰りになっては？ と促してられる句の優しさ。

「舞いつつも 消ゆるさだめや 春の雪」

舞いつつもは、如何にも華やかでありながら、消ゆるさだめや 春の雪と結んだ所、人間のかなしさが伺われます。これも 全く美しく奥深いものを感じられてなりません。

帯広市西18条南3丁目42-1 (33-3587)

村瀬 杉男 (68才) 無職

「帯広の森に夢をたくして」

帯広の開拓は帯広市史によると、明治16年(1883年)伊豆松崎の依田勉三引きいる晩生社の開拓団で始まったと承知しており、これが帯広市の開基元年ともなっています。開拓は手つかずの未開の森林と原野への緑の挑戦であり、大地から恵の食糧を生産して北辺の地に楽土建説の夢を抱いて国家の大長期のプロジェクトであったと思います。明治・大正・昭和・平成へと時代は変わりましたが、年輪の刻みは未だ120年にみえない。開拓のスピート、その近代化は開拓者のフロンティア精神と国の援助もあって促進されたが、社会資本の充実の本州府県に比べると、較差、落差は大きく目立ち、北海道開発庁が国の省庁としていまだ存置されている現状であります。自然に恵まれる北海道・十勝・帯広と、キャッチフレーズでは全国に発信されていますが、市民として別の視角、視点で私共の周囲を見渡してみますと、経済性なるが故の緑の喪失が目立つと思います。之を憂いて時の先覚市長の吉村 博氏は、帯広の街を緑で囲む帯広の森構想、即ち田園都市のまちづくり構想を提起し、市民の合意と参加の中で昭和48年(1973年)に始動した。前、田本憲吾市長、現、高橋幹夫市長にもこの百年の大計の巨大プロジェクトは継承され、平成六年は帯広の森造成20周年の記念すべき年を迎えた事は一市民として誠に慶賀にたえ

ないところであります。20年と云うと人間で云う成人であるが、森の生態型からいうと幼年の時代ではないかと私は思います。帯広市民憲章(昭和57年・市開基百年記念制定)第四章に、一・自然を大切にし、やすらぎのあるまちにしましょう。を私共は暮らしの理想として高く掲げているが、帯広の森の造成、維持を通じてこの精神の昂揚を21世紀に引き継いで行きたいと思っております。私共の三友中央町内会でも今年の植樹祭参加は40名、町内会活動の大きな柱として、数えて16回目の記念植樹で、72本の若木をすくすく伸びよと念じながら植えこみました。私は平成5年7月に帯広の国際姉妹都市、米国アラスカ州・スワード市との提携25周年記念の親善市民訪問団の一員として、高橋市長・岡田市議会議員・小、中学生、一般市民等40余名が現地でホームステイしながら交流する機会に恵まれました。その時の体感生涯思い出にのこる感動がありました。アラスカの大自然は、氷河・大森林・海・そうしてそこに住む人達でした。正にこれらが融合し、共生し、北緯60度の自然環境のきびしい中、市民の目は活き生きと輝き、魚で云うと、いきの良い鮮度の赤い目ばかりでした。心は(知・情・意)やすらぎの、ぬくもりのある、あたたかい市民の人達ばかりでした。帯広市民憲章第四章の理念がここスワード市民の暮らしの中に花開いている感動を体感したことでありました。このような事で帯広の森は、帯広市民の心のオアシスとして、造成、維持管理、計画的施業計画の年輪を刻んでももらいたいと思っております。このため日頃考えている私見を3~4点ばかり提起したいと思します。

提起

1. 人災による林や火災を起こさないよう防火体制の確立。(市民啓発・消火栓等)
2. 育樹をしない人工原生林を一部林班に存置し、自然観察学習林として活用する。
3. 駐車場・水飲場・キャンプ場・散策遊歩道、森に通ずる交通アクセス。市民協力の巣箱の設置等施設整備の併行。
4. 帯広の森を起点として、沿線農家や、道路管理機関の協力を得て日高山脈の大自然に通ずる例えば八千代牧場、ポロシリ農村リゾート、岩内仙峡、帯広空港などに通ずる農村景観ロードの緑の並木道構想の検討など。採用樹種は、(例)白樺・桜・カラマツ・など特に桜の並木道を推奨する。防風林対策としても農政上効果大。

以上帯広の森について日頃の所感と提言を一稿にまとめましたが、要は開拓百年によって帯広の街は田園都市としての体裁を整え、平成5年には中核的地方拠点都市として第一次指定を受け更なる飛躍のスタートを切りました。開拓によって面的には緑は少なくなりましたが、私共は知恵と創造を持っている市民です。

自然との共生なくして人間の心の浄化はできません。自然と農村は帯広の街のすぐ外縁にあります有利性を帯広市民は保持しています。この環境に感謝しながら帯広の森は現代のミニ版ではあるか、開拓のリサイクルの森として再現し、後世の子孫に残したいものがあります。今生きる17万帯広市民の心意気を帯広の森の一本一本の樹魂に託して、平成6年5月15日第20回帯広の森植樹祭にあたって一市民として、一町内会員として私の心の夢を帯広の森に託したのであります。

(中学生以下の部)

帯広市西21条南2丁目35-7 (35-1411)

山本 美幸 (12才) 緑園中学校 1年

「自然のあふれる家 そして 未来の家」

私にとって、帯広の森は――。

「春、夏、秋、そして冬、の四季を おしえてもらう場所ーいや家のような所のように感じるのです。

春を迎えて、中学生となった今、思い出をたどってみると、小学生のときは、けっこう遊びにいらっていたなあって思います。

遠足、マラソン大会、そういえば、冬は、家族で、ソリスベリなんかも、何度か行きました。

二つくっついていて、めずらしい形のたんぼぼを見つけて、友達と、きゃあきゃあさわいだ事も、うれしさといっしょに出たあせも、「頑張るねっ」ってVサインを出した事も、そして、こぼしてしまったジュースも…やっぱり他の場所とは、ちがう一時を、過ごしていました。そして、「自然のあふれる家」だったのです。

私は帯広の森が大好きです。そして、自然も大好きです。本当に本当に大好きです。

でも現実である今は――。

自然が少なくなっているようで、なんだか怖くて、とても不安になるのです。

今までの思い出の場所が、消えてしまったらと思うと、すごく怖いのです。

私たちの未来は、どうなるのでしょうか？

そして、私達のあとをつぐ、未来の子供達は、今の私達のように、自然に親しみ、いろんなことを感じ、学んだりすることが、できるのでしょうか。

自然と遊ぶことは、楽しいです。だから、未来の子供達にも、楽しんだり、喜んだりしてほしいのです。本物の幸せを感じてほしいのです。

だから――。

だから、自然は、なくてはならない物なのです。人間が生きていけるのも、自然のおかげ――。

みんな、自然は、言葉では、言い表せないほど、大事なことは、わかっているはず……

なのに、どうしてこわれていってしまうのだろう？不思議で 不思議で――

帯広の森は、みんなに愛されています。好まれています。守られています。それは、施設だからでしょうか？

私は、みんなが、帯広の森で、遊んだりする事によって、自然が好きになったからだと思うのです。

だから、これから みんな 自然と遊ぶといいと思います。

そして、みんなが、いろいろな 自然の良さを見つけて、自然の大切さを改めて知り、父母のように、大切に、大切にしていってほしいです。

そうすれば、きっと再び、自然が、あふれている地球が、できあがると思います。

――もう、自然をはかいしてまで、楽しようなんて事、考えないでほしい。

自分の力でも、できる事を、忘れないでほしい――。

私はこう思うのです。

帯広の森は素敵な所――そして自然の集まった家

今日は ポカポカ いい天気。

犬は、陽の当たる場所で気持ちよさそうに昼寝しています。

すぐ近く場所には、さくらの木があって花びらが、風と一緒に、春のにおいを運んできます。

小さい頃よく登った木……今思えばこの木も大きく成長したなあと感心してしまいます。

そして庭では――

まぶしいあまりの黄色の花、その横には、チューリップのつぼみが。

中の赤い赤ちゃんが今にも顔を出しそうです。

「いつの間にこんなに大きくなったの。なんて、つい聞きたくなるくらいに成長しているくるみの木、そして、その後ろには――30センチほどの小さなマツの木。

こんな身近な場所で、小さな自然の家を見つけました。

マツは、未来の子供達といっしょに、また一つ未来への小さな森を、つくっていけるのでしょうか？

帯広の森はすぐそこにもありました。でもそれは、まだ、何年も、あとの事です……

そう思えば、いくらでも未来にたくすことが出来ます。

――そして

未来は輝くものとなるのです――

帯広市西9条南19丁目1番地 (24-1634)

堀 哲也 (11才) 花園小学校 5年

「ぼくが思う帯広の森」

帯広の森はとてもいいものだと思います。

植物の種類も多くいろいろな、草花が観察できるので森に入る前でも楽しい気分にしてくれる所だとぼくは、思います。

それに、町からとても近いのですぐ行けて、たっぷり、自然の中で楽しんでくれる、そんな所がこの森の良い点だと思います。

それから、帯広の森には、いろいろなせつがととのえられているのでそこで遊びそのあと、森林浴が楽しめる所が二つ目良い点だと思います。

帯広の森は、毎年少しずつ大きくなっていくから、その大きくなった分、帯広の森と仲よく友達に、なってくれる、人数も増えていけばいいなと思います。

友達が増れば、その分、自然をりかいしてくれる人が多くなるということだから、森が大切な今、そういう人と、協力しあってがんばらなきゃいけないと思いました。

だけどぼく達は、まだ森のことを学ばなくてはいけないと思います。帯広の森というとても環境がととのった場所があるのだから、ぞんぶんに生かし学んでいくことが大切だと、思います。ぼくにとっては、これからの、森と友達になる第一歩だと思います。

はやく、森と友達になり、草木の知識を、広げていこうと思います。だからこれからの一日一日を大切に、して、がんばろうと思います。

みじかな物から、始めて、たくさんのことを覚えていくのが必要だと思いました。

帯広市西19条南2丁目21-26 (33-2783)

河合 綾香 (10才) 広陽小学校 5年

「自然の中の私達」

「うーん。うーん。」

エンピツを持ち、考えこむ私。森…森…。木や花や草がたくさんあり、さまざまな虫や鳥、動物などがいる森…。森にはそういうイメージがあります。『森林浴』こんな言葉さえある…。森はきっと、生物みんなの安らぎの場所なんだと思います。私は『森の少年隊』に入っていて苗木や花を植えたりしています。入る前は、自然の事に興味がなくて、友達にさそわれて、ちょっとおもしろそうだなー、と思い入って見たんだけど、今では自然の事がすごく近く感じます。緑の羽根がいうば金をしたり、花を植えているうちに、自然の大切さがだんだんわかってきました。それと共に、私のゆめも広がって行きました。私達が大きくなる時には、帯広は緑でいっぱいになってるかもしれないな。大人も子供もみんな緑が大好きになればいいなあ…。この

ゆめが実現するのはいつなんだろうな、と今から楽しみです。私達は、せっかく自然の中に産まれてきて、自然の事を考えるチャンスをじゅう分にあたえられたんだから、それをめいっぱい考えなくちゃならないと思います。

—これからどんな時代がくるかわからないけれど、緑は守って行きたいです。たとえ緑がなくなりそうになってもこの言葉をたよりにがんばって行きたい…。

『自然の中の私達』

帯広市西22条南3丁目9-4 (36-3549)

柄澤身衣子 (10才) 開西小学校 5年

「帯広の森について」

私は帯広の森に着いてこう感じました。

帯広の森には動物もいますし、例えば、鳥や虫などとか、木や花もけっこうあります。

そんな森がとても自然のある森だと思います。

木には虫がふっついていきます。

せみがとくにいます。

虫がいないと少しおかしいです。

虫も私は緑の仲間だと思いました。

私がこうなればいいなあと思っているのは、森を遊べるところにしたらいいなあと思っています。

例えば池があったり、花をもっと植えて花壇を作ったらとてもいい所になると思います。

帯広の森は、スポーツする人は行きますが、あまり普通の人は行きません。

そこで私はそう言うことを考えました。

お弁当をもってそこでピクニックをして、お花をながめながら、ご飯を食べるのは最高だと思います。

それから森で、森林浴をしたらもっと、よいと思いました。

そして池では、あめんぼとり、木のところでは虫とりをして遊ぶと楽しいと思います。

そしてその木をもっとふやして花も、もっとふやして緑いっぱいにした、森がいいなあと思っています。

帯広市東1条南16丁目16番地 (25-4926)

三谷 莉奈 (11才) 光南小学校 5年

「これからの自然」

今、少しずつ、自然が、なくなってきているので、帯広の森を今よりも、木をふやし緑で、いっぱいになればいいな、と思います。

それには、一人、一人が、自然を大切にしていけばいいと思います。たとえば、紙を無だ使いしないことや、外に出て遊ぶ時は、自分でちらかしたゴミを持ち

帰るようにすることなど自分で、できることは、たくさんあります。こんなふうに自分で、できる事を少しずつやっていけば少しでも自然がふえると思います。

それから、まだ、帯広の森の事を良く知らないの、これから、がんばって、もっと、帯広の森の事を知りたいです。あと、自然に親しんで森林の中でキャンプをしたり、遊んだりして、自然に親しんでみたいです。

それと、動物やこん虫など、いきものを、つかまえないことに気をつけて、あと20年後には、さっきも書いたように緑でたっくさんになって、日本一になるくらいに木がたくさん生えて空気もおいしく、水もきれいな自然がたくさんあるところになってほしいです。東京では、水も、よごれているし、空気も、よごれていて、自然がすごく、なくなってきています。でも、我々が住む北海道は、自然にめぐまれ、緑がたくさんで、良かったと、思っています。

それから、帯広では、水がとても、きれいなので、その水を利用して、帯広の森で、年に一度「水のてんらん会」のような感じで、水を使った、ふん水などを、てんじして、「水のてんらん会」みたいなのを、ひらくと、いいと思います。あと、プールを作るといいと思います。それから札内川のところにある「しん水公園」のような、水の公園を帯広に、もう少し作ってほしいです。そのためには、帯広の水をもっともっと、大切にしていけば、帯広にも、もう一つくらい、「しん水公園」のような所ができると思います。

とにかく、これからは、自然を、もっと大切に、帯広の森に木がたくさん生えてくれればいいと思います。

帯広市南町南 9 線西23番地22 (48-3982)

大橋 絵美 (11才) 稲田小学校 6 年

「帯広の森」

私は、小学校五年生になって森の少年隊に入隊しました。その年の五月、初めて帯広の森市民植樹祭に参加しました。

それまで、私は自然に関することには興味がなかったの、森は人間にどんな役目を果たすのかなど、ほとんど知りませんでした。

初めて木を植えてみて思ったことは、大きく育つには、何十年ぐらいかかるのだろう、大きな木は、ずっと昔からはえているんだなぁと思いました。

五年生の秋、帯広の森市民育樹祭にも、参加しました。

今度は、植樹とちがって枝打ち、かんばつをして木を切っていくので、けっこう大変でした。

枝打ちした木をあつて見ると、切る前よりずっときれいに見えました。

今度は、木の穴のあいている所に、きのこを植えました。私は、森に木の他にも、植物が増えたので

と美しくなったなぁと感じました。

この植樹祭や育樹祭で思っていることは、「緑をふやす」、「緑を大切にする」という心があれば、どんなに小さな森でも、素晴らしい森になると思っています。

そして、何十年の月日がたつて、この森が有名になるほどの、りっぱな森になってほしいと思っています。私も、自分で植えた木がじょうぶに育っているのが見れるのを、今からとても楽しみにしています。

帯広市西16条南 6 丁目37-1 (36-1816)

本間 晶子 (11才) 若葉小学校 6 年

「帯広の森について」

私は、帯広の森は、きれいな森だと思います。

それに、今年、植樹祭と育樹祭をやっているの、木もたくさん育っています。

これからも、植樹や育樹をやつて、美しい森をつくらせて行きたいと思っています。

私たちがいいにも、森をよごして行く人がいると思います。

私たちの手で、なんとかしていければ、きれいにしたいと思います。

考えていることは、みんなと森の中で、楽しくゲームをしたり、ドッジボールをして、遊びたいです。

バードウォッチングや植物観察をして、いろいろな鳥や花の名前を調べる「勉強会」みたいなのを作つて、森のことをするようなことをしてみたいと思っています。

帯広市西21条南 5 丁目29-8 (34-8126)

杉本 奈津子 (12才) 森の里小学校 6 年

「帯広の森と私」

帯広の森は、私達のとても身近にあります。学校の遠足などでも行ったりしました。帯広の森の陸上競技場や武道館なども、たくさんの人々に使われています。親しまれているのだと私は思います。

帯広の森ができて20年目になると、私は、12才なので、私の生まれる、8年ほど前から作られてきたことにおどろきました。私は、もっと前から、長い年月をかけてできたものだと思っていたからです。だからこの事を知つて本当におどろきました。

私は、少年隊に入らなかつたら、このような事には、興味を持たずに、知らないままだったと思うので、入つて、興味を持ち、知ることができたのがとてもうれしいです。これからも、帯広の森の、まだまだ知らないところを色々、調べたりして知っていきたいと思っています。